

AST(GOT)				350000	
				担当部署	
AST(GOT)				生化	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項			特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	3	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→			
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報			特記事項なし		
検査受付時間			緊急対応(24 時間)		
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項			溶血による影響を受ける為、採血時に注意が必要。 採血前に、激しい筋肉運動を行うと骨格筋からの AST の逸脱により高値になることがある。		
検体採取の特別なタイミング			特記事項なし		
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件			室温		
検体受入不可基準			1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体		
保管検体の保存期間			冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)		

検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			
生物学的基準範囲		13-30U/L 日本臨床検査標準化協議会 共用基準範囲			
臨床判断値		設定なし			
基準値				単位	U/L
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
13	30	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	1000U/L (新規の外来患者)			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし			
臨床的意義		アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)は、ピリドキサルリン酸を補酵素とするアミノ基転移酵素である。肝、骨格筋、心筋、腎臓、赤血球など多くの臓器組織細胞中に含まれ、これらの障害で血中に逸脱する。AST は相対的に肝に最も多く含まれるため、主に肝疾患の診断に用いられる。しかし、ALT(GPT)が肝特異的であるのに対し、AST は骨格筋や心筋疾患、溶血性疾患でも上昇をみる。したがってAST 単独による肝疾患の鑑別は難しいがAST/ALT 比を考慮することにより特異性は向上する。 三菱化学メディエンス 検査項目解説改訂第 4 版 15,2008			